

栗原の稲作通信

令和2年第5号 令和2年7月13日発行

宮城県栗原農業改良普及センター

宮城県米づくり推進栗原地方本部

電話番号 0228-22-9404

□県内の中生品種の出穂期は8月2日頃の見込みです（古川農試, 7月3日現在）

□葉いもち防除 | 7月1日から感染好適条件が広域的に多く出現しています。

発生を確認したら、直ちに、茎葉処理剤で防除しましょう。

□出穂の25~10日前に低温*が予想される場合は深水管理としましょう。

*平均気温 20℃以下 または 最低気温 17℃以下

□草刈りは、7月中旬（出穂10日前）までに終わらしましょう。

□今後、葉色の低下が見込まれるので、品種や生育量に応じた追肥をしましょう。

■気象経過

- ・6月下旬以降、曇りや雨の日が多く、日照時間が平年より少なく推移しています。
- ・今後も曇りや雨の日が多い予報となっています。

最新の天気予報を確認し、適切な水管理等を行いましょう。

2週間気温予報(宮城県)URL : <https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/twoweeek/?fuk=34>

■生育経過

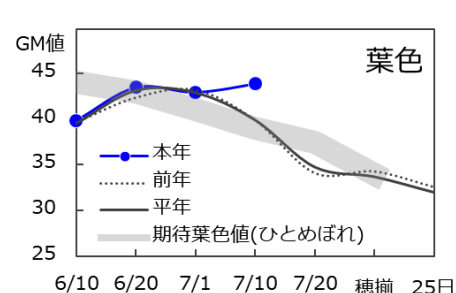
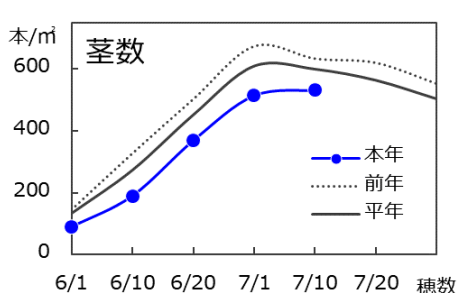
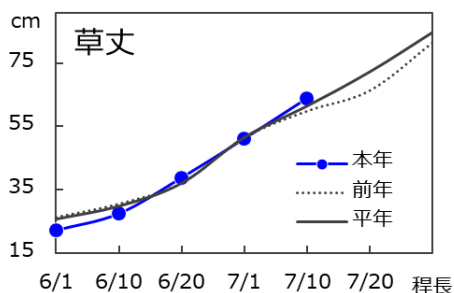
●生育調査ほ(移植)生育状況(7/10現在) ~ 多くのほ場で幼穂形成始期に達しています ~

- ・草丈：やや長い
- ・茎数：やや少ない
- ・葉数：平年並
- ・葉色：濃い

生育調査ほ調査結果(7/10現在)

品種	地区	田植日 本年	草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉数(枚)			葉色(GM値)			幼穂長(mm)		
			本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	築館	5/6	65	104	102	482	77	83	11.3	0.1	-0.1	43.0	5.0	4.3	9.2	-4.0	-3.0
ひとめぼれ	若柳	5/20	67	109	106	696	93	102	10.6	-0.2	-0.4	45.6	-0.1	4.0	1.1	0.8	0.0
ひとめぼれ	一迫	5/13	60	106	103	419	79	78	11.4	0.9	0.2	43.0	7.0	3.5	2.0	-1.8	-0.5
ひとめぼれ	平均	5/13	64	107	104	532	84	89	11.1	0.3	-0.1	43.9	4.0	4.0	4.1	-1.7	-1.2
つや姫	築館	5/23	59	108	99	465	89	87	10.4	0.3	-0.3	46.0	1.6	1.9	-	-	-
だて正夢	築館	5/21	72	113	-	529	99	-	10.3	-0.6	-	47.2	4.6	-	-	-	-
萌えみのり	金成	5/9	71	115	116	562	112	110	11.5	1.0	0.5	50.8	5.5	6.4	2.0	-1.0	0.3

注) 平年値は過去5年平均値とする



ひとめぼれの生育の推移(ひとめぼれ生育調査ほ3か所の平均)

●直播展示ほの生育状況（7/10現在）

- ・基肥一発肥料の緩効性窒素を前年より長期に溶出する成分に変更した影響で、莖数は少なく、葉色は淡いですが、有効莖は確保されており、生育は良好です。

直播展示ほ調査結果（7/10現在） *べんもり湛水直播（点播）

品 種	播種日		草丈(cm)		莖数(本/m ²)		葉数(枚)		葉色(GM値)	
	本年	前年差	本年	前年比(%)	本年	前年比(%)	本年	前年差	本年	前年差
萌えみのり	5月8日	5日早	51	105	612	62	9.6	0.9	40.7	-3.2

■今後の管理

●生育ステージの把握 ~ ほ場毎に幼穂長を確認して生育ステージを把握しましょう ~

幼穂形成期と減数分裂期の目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1~2mm	—	25日
減数分裂期	3~12cm	-10~0cm	10~15日

地帯別生育ステージの予測（7/3現在、古川農業試験場）

地帯区分	田植初期~終期	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
北部平坦	5/2~5/19	7/2~7/11	7/12~7/21	7/31~8/7
西部丘陵	5/7~5/26	7/5~7/16	7/15~7/26	8/3~8/12

*「ひとめぼれ」「ササニシキ」を対象に、各生育ステージの幅を各地帯区分の田植え始期~終期で予測

●水管理 ~ 低温時は深水にしましょう ~

- ・基本的な水管理は、以下のとおりです。

中干し ▶ 間断かんがい(穂ばらみ期) ▶ 浅水(出穂・開花) ▶ 間断かんがい(開花期)

- ・中干しは、幼穂形成期までに終了しましょう。

* 中生品種は多くのほ場で幼穂形成期に達していると考えられます。

- ・倒伏の心配のある水田では、出穂前まで飽水管理（足跡の水がなくなったら極浅めに入水し、土を湿った状態に保つ）を行い、根の健全化を図りましょう。

- ・幼穂形成期~減数分裂期に低温*が予想される場合は、深水にして幼穂を保護しましょう。

* 平均気温が20℃以下、または最低気温17℃以下が続く場合

●追肥 ~ 極端な葉色低下を避けるため追肥を行いましょ う ~

- ・極端な葉色低下により玄米品質が低下するので、品種毎に適切な追肥を行いましょ う。
- ・有機入り肥料を追肥に使う場合は、肥効が現れるまで時間がかかるので早めに施用しましょ う。
- ・一発型肥料を基肥に使用した場合でも、例年葉色が低下しているほ場では追肥を行いましょ う。

追肥時期の生育量と追肥量の目安 *生育量が目安の範囲内~下回る場合に追肥が可能です

品 種	幼穂形成期（幼穂長1~2mm）			減数分裂期（幼穂長3~12cm）		
	莖数 (本/m ²)	葉色 (葉緑素計)	追肥量 (窒素成分) (/10a)	莖数 (本/m ²)	葉色 (葉緑素計)	追肥量 (窒素成分) (/10a)
ひとめぼれ	470~530	38~40	1kg	450~500	35~37	1kg
ササニシキ	—	—	—	550~580	32~34	1~1.5kg
つ や 姫	550~580	35~37	2kg	—	—	—
まなむすめ	580~600	35~37	2kg	—	—	—

★だて正夢の追肥量（窒素分量/10a）

だて正夢の生育量の目安

- 基本は「減数分裂期2kg」
- 茎数が少ない場合は「幼穂形成期1kg+減数分裂期1kg」

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈 (cm)	64~70	76~82
茎数 (本/m ²)	390~460	380~420
葉色 (葉緑素計)	40~42	37~39

*「だて正夢」は「ひとめぼれ」等の他品種より茎数が少なく、葉色が濃くなる傾向にありますが、生育量が表の目安を超えている場合を除いて、追肥を行いません。

●病害虫防除

～葉いもち、イナゴ類の発生に注意しましょう～ ～草刈りを出穂10日前までに終わらしましょう～

*発生量および発生時期は、発生予報第6号(概要版)(宮城県病害虫防除所・7/10発行)に基づいています。

▶葉いもち …発生量「平年並」 発生時期「7月第3半旬(やや早い)」の予報

- アメダス資料による感染好適日の推定では、7月1日から感染好適条件が広域的に多く出現しています。特に、萌えみのりなどのいもち病に弱い品種や、予防防除を行っていない直播栽培などでは注意しましょう。
- 葉いもちが確認された場合は防除しましょう。特に、穂いもちの伝染源となる上位葉での感染には注意が必要です。

▶紋枯病 …発生量「やや多」の予報

- 要防除水準を超えた場合は、穂ばらみ期から穂揃期に防除を行きましょう。
要防除水準：穂ばらみ期の発病株率 ひとめぼれ18% ササニシキ20%
- 高温多湿で発生しやすく、前年多発したほ場では、注意が必要です。

▶稲こうじ病 …発生量「平年並」の予報

- 穂ばらみ期に低温で降雨日数が多いと発生しやすくなります。
- 銅剤による防除適期は、出穂10～20日前です。

▶斑点米カメムシ類…発生量「平年並」 発生時期「7月第4半旬(平年並)」の予報

- 畦畔の草刈りや牧草の刈取りは、出穂の10日前(7月中旬)までには終わらせましょう。出穂直前の草刈りは、斑点米カメムシを水田に追い込むことになるので避けましょう。
- 薬剤防除は「穂揃期+その7～10日後」の2回防除が基本です。イヌホタルイやノビエが発生している場合は、1回目の薬剤散布を出穂始期に早めましょう。

▶イナゴ類 …発生量「多」 発生時期「7月第2半旬(やや早い)」の予報

- コバネイナゴの発生が目立っています。齢が進んだ個体には薬剤の効果が低下するので、多発時は速やかに防除しましょう。